

International Programs in Language and Culture 2017



北海学園大学人文学部



Brock University's partnership with Hokkai-Gakuen University

In the wake of our 50th anniversary celebrations here at Brock University year, it is a time for us to reflect on important partnerships we have developed over the years. Our relationship with Hokkai-Gakuen University is one partnership that we certainly value at Brock University.

Just as Brock has grown over the years, so, too, has our partnership with Hokkai-Gakuen University. For more than ten years we have had the pleasure of welcoming students from the Faculty of Humanities to our university. Since 2014 the program has expanded so we also have the pleasure of working with students from the Faculty of Business. These new groups have allowed us to diversify the types of academic activities we can offer, including trips to local wineries, the Niagara Hilton Hotel and the Royal Bank of Canada. At the same time, we see your students actively participating in many of our annual university and local activities such as our Grape Stomp and the Ice Dogs hockey games.

The enthusiasm and energy the Hokkai-Gakuen students bring to our campus every year is wonderful to see. During their short stay, they form new friendships with students from around the world and develop lasting relationships with their homestay families. We are all enriched by their presence in our classes and on our campus.

We hope that as Brock moves into the next 50 years of its founding, our long-standing relationship with Hokkai-Gakuen University will continue to grow. I also hope that I have the opportunity to visit your campus once again in the near future.

Strengthening the HGU-ULeth Partnership

On behalf of the senior administration and myself, I would like to invite you to join our University of Lethbridge International family. The University of Lethbridge is consistently ranked as one of the top small universities in Canada and has a long tradition of providing quality education and helping students achieve their personal and educational goals.

We welcome you into our international family with representation from over 65 countries. You will work with others to gain first-hand information about and insight into Canadian university life. As a member of our International family, you will find plenty of opportunities to connect with other students, both Canadian and international, and have access to all student services.

Make the University of Lethbridge your destination university. See you soon!

人文学部カリキュラムにおける語学文化研修

英米文化特別演習：9月

英米文化特別演習は、9月初旬から約3週間、本学の協定校であるカナダ、レスブリッジ大学（アルバータ州）またはブロック大学（オンタリオ州）のいずれかにおいて、現地の大学の授業を履修するために必要な英語運用能力を養成するプログラム（IELP または EAP）の履修と現地での様々なアクティビティを通じた文化体験による研修です。2014年度からは学生の希望と英語力により、2つの大学のいずれかを選択して参加できるようになりました。参加学生にとってこの研修は、現地での様々な経験や出会いを通じてその後の新たな目標を見つけ、より長期の留学や進学を目指すなど、次のステップに向かうための重要な足掛かりとなっています。是非、多くの学生に参加してもらいたい研修です。



2017年度結団式（経営学部と合同開催）



ブロック大学研修



レスブリッジ大学研修

国際文化特別演習：9月～12月

国際文化特別演習は、英米文化特別演習と同じ時期に上記の協定校2校のいずれかにおいて、現地での1学期（約14週間）を他の国からの留学生と一緒にIntensive English Language Program（IELP、ブロック大学）、English for Academic Purpose Program（EAP、レスブリッジ大学）で大学レベルでの学術研究に必要な英語運用能力を養成するための授業を履修します。3週間という期間の短い英米文化特別演習より、さらに大きな成果が期待されます。この科目は2年次より履修可能で、英米文化特別演習の参加経験の有無を問わず参加可能です。また、現地での学修は履修科目と成績に応じて12単位（過年度）が本学卒業単位として認定されました。

Contents

挨拶	1	レスブリッジ大学及び Lethbridge 市の紹介 レスブリッジ大学海外研修事業の概要と EAP 授業	9
人文学部カリキュラムにおける語学文化研修	2	レスブリッジ大学のアクティビティ	10
ブロック大学及び St. Catharines 市の紹介 ブロック大学海外研修事業の概要	3	参加者エッセー [レスブリッジ大学 / 英米文化特別演習]	11
ブロック大学の ESL 授業 ブロック大学のアクティビティ	4	参加者エッセー [レスブリッジ大学 / 国際文化特別演習]	13
参加者エッセー [ブロック大学 / 英米文化特別演習]	5	研修までの流れ	15
参加者エッセー [ブロック大学 / 国際文化特別演習]	7	海外研修事業の歴史	16
		Photo Gallery	17

ブロック大学及び St. Catharines 市の紹介

St.Catharines市

カナダ、オンタリオ州南西部に位置するセント・キャサリンズ市（City of St. Catharines）は、ナイアガラ地域では最も大きな都市です。果樹園やぶどう園、ゴルフコース、史跡などに囲まれ、緑あふれる景観からガーデン・シティ（The Garden City）とも呼ばれています。手入れのゆきとどいた美しい公園と 200 を超える温室があり、カナダの温室産業の基地ともなっています。

トロントからは車で 1 時間、ナイアガラの滝には 20 分弱と近く、ナイアガラ観光に適した都市でもあります。また、トロントとアメリカのバッファローの中間という位置でもあり、アメリカからも多くの人が訪れます。ワイナリーは 45 以上もあると言われ、カナダ最大のワインの産地としても知られています。



セント・キャサリンズ市



ブロック大学

ブロック大学とは

ブロック大学は、セント・キャサリンズ市にある 1964 年に設立された総合大学です。大学名は、1812 年の戦争（War of 1812）の軍功で名高いアイザック・ブロック（Isaac Brock）の名にちなんでいます。中規模ながら充実した学術プログラムが国際的にも評価され、応用健康科学部、経営学部、教育学部、人文学部、数学科学部、社会科学部及び大学院が設置されています。また、留学生向けには充実した英語集中講座があります。

※ブロック大学公式 HP <http://www.brock.ca/>

ブロック大学海外研修事業の概要

今日は社会の多文化化にともない、日常語としての英語の普及および実践的な多文化適応力の養成が求められています。ブロック大学と本学とは 2000 年に交流協定を締結し、9 月上旬からの 3 週間、IELP（Intensive English Language Program: 英語集中講座）に学生を派遣しています。2014 年度からは科目名を「英米文化特別演習」と改め、1 年次からの参加が可能となりました。さらに 2015 年度からは 2 年次から参加できる「国際文化特別演習」として、9 月上旬から 12 月中旬までの秋学期、約 3 ヶ月にわたり IELP を履修することを可能としました。両演習とも英語圏の大学での就学に必要な英語運用能力を習得することが主要な目的ですが、ホームステイや様々な文化活動を通じて、カナダの文化・社会についても理解を深められるのも特徴の一つです。研修を通じて得られるもう一つの経験は多文化主義の実体験です。研修期間中、学生たちは中南米、アジア、中東各国からの留学生を中心とする多様な文化背景を持つ人々と授業を受けることになります。様々な国の学生と友好を深め、視野を広げる機会となり、積極的な授業参加や発言の場ともなっています。

ブロック大学の ESL 授業【プレイスメント・授業内容等】

ESL クラス

平日 8:00 ~ 16:00

学生は5つのクラス（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング・文法）を受講します。

●自身のレベルに応じて学習

プレイスメントテストの結果に応じて、レベル0（英語入門クラス）からレベル5（大学入学準備クラス）までの6つの段階に習熟度別にクラス分けされます。

●いろいろな国からの学生と共に学習

アジア・中東・中米・南米などから来ている学生たちと共に学びます。

●授業は、英語だけを使用

世界中から学生が集まるため、お互いにコミュニケーションを図る際は、英語を使用しなくてはなりません。授業中だけでなく、大学構内では他の言語を使用せず、英語だけを使うよう勧められています。



ブロック大学のキャンパス



①ブロック大学でのオリエンテーション



②③④ブロック大学の教室で

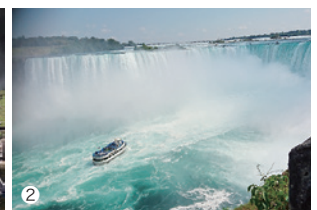
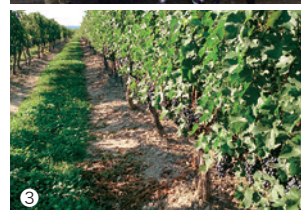


ブロック大学のアクティビティ【トロント小旅行・遠足等】

英米文化特別演習では英語授業の履修による教室内での学習に加え、教室の外で行われる様々なアクティビティを通じて自分の目的に応じたコミュニケーションをとりながら英語を学ぶ機会が設定されています。

アクティビティは、世界的な観光地であるナイアガラの滝の見学・ボートツアー、レイクサイドでのバーベキュー、ワイナリー訪問、セント・キャサリンズ市庁の訪問、ナイアガラ・オン・ザ・レイク訪問など多岐にわたります。週末には、カナダ最大都市であるトロントへのデイ・トリップが行われ、運良くトロント国際映画祭の開催時期と重なれば、世界中から映画関係者やファンが訪れる国際都市トロントの非日常的な一面も垣間見られるかもしれません。

この他にも大学の行事であるぶどう踏み祭り（Grape Stomp）やキャンパス内のコンサート、ボランティア活動などにも自主的に参加することができます。これらアクティビティに積極的に参加すれば、現地の学生や住民との出会いを通じてさらに現地の文化を学ぶことが期待できます。



①②ナイアガラの滝の見学 ③ワイナリー訪問 ④セント・キャサリンズ博物館訪問 ⑤キャンパス内のコンサート ⑥ぶどう踏み祭り

3 Weeks

行ったからこそ知った文化の違い



由井 翼

YUI Tsubasa

1 部英米文化学科 1 年



ホスト・ファミリーと

私は、今回の語学研修で色々な経験をすることができました。その一つに文化の違いがあり、私にとって大きな壁となった文化の違いが二つあります。

まずは“NO”と言いたいときにはしっかり伝える、ということです。日本は世界的に見てもハイコンテクスト文化であるため、多くの日本人がはっきりと断ることに抵抗があります。一方、カナダは比較的ローコンテクスト文化であるため、断らないということは嫌ではない、というふうに勘違いされてしまいます。特に、私はイエスマンであるためこの感覚の違いを乗り越えることに苦労しました。

もう一つが、はじめのころ私は会話中にわからなかった言葉をいわれても聞き返すことができませんでした。理由としては、日本特有の「空気が読めない」人にはなりたくないというプライドが邪魔をしたことが挙げられます。しかし、異文化において潤滑なコミュニケーションをするためにはこれらを乗り越える必要があります。

「留学に行くほどの英語力がない」という理由で留学に行くことをあきらめている学生も少なからずいると思いますが、その心配はありません。私もはじめの頃はしっかりした文章で言わなければ伝わらない、と考えるあまりホストファミリーとの会話の回数が少なく、内容も必要最低限のことばかりでした。しかし、会話を重ねていくうちに、正しい文章で話そうとするよりも、ジェスチャーや豊かな表情を言葉の中を含めることの方が重要だとわかり、それからは積極的に会話をできるようになりました。つまり、英語のコミュニケーションに必要なことは積極的に話しかけることです。

私は大学一年生でこの語学研修に行くことができて本当に良かったと思います。これから参加しようとしている学生も失敗を恐れずに挑戦してほしいです。



3 Weeks

カナダでの経験とこれから



坂本 晴菜

SAKAMOTO Haruna

1 部英米文化学科 2 年

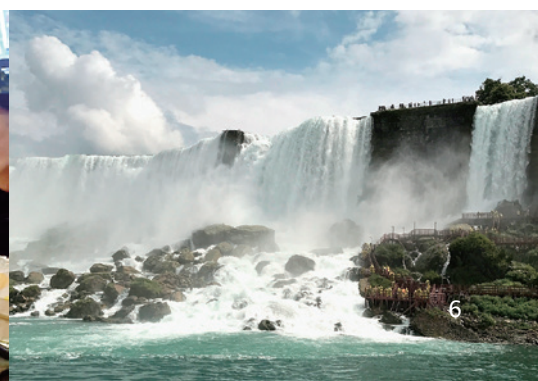


ブロック大学の旗のもとで

今回私がこの語学研修に参加した理由は、英語力の向上はもちろん、カナダの文化に触れ日本の文化との違いを知りたいと思ったからです。私は今回のブロック大学語学研修を通して、自発的学習の大切さを学びました。すべての学習において自発的学習は重要なことですが、特に英語学習においては必要不可欠なことだと思います。

ブロック大学では ESL プログラムに参加し、他の日本の大学生や他国からの留学生とともに毎日学習を進めました。初日に行うプレースメントテストにより 5 つのレベルに分けられ、私はレベル 3 クラスに振り分けられました。授業ではもちろん全て英語で話さなければならず、また発言も求められます。私は初めの頃、間違えることを恐れてあまり自分から話したり発表したりはしませんでした。しかし、他の国の留学生は積極的に英語を使い、自ら発言をしていました。その時に私は、カナダまで来て英語を学びに来たのにも関わらず、日本にいるときと変わらない自分に気づきました。ただ授業を受け、知識をつけるだけでは英語は話せるようにならないということに気づかされました。それから私は、授業でわかったときには自ら手を挙げ発言したり、積極的に他の国の学生と英語で話してみたりして、少しでも自分から英語を話すように心がけました。その結果、自分の英語の間違いに気づけたり、自分の英語が伝わったことに喜びを感じたりして、自発的学習の大切さを学びました。英語を話せるようになるためにはまず、話そうとしなければ何も始まりません。そんな当たり前のことがなかなかできていなかった自分に気づけて良かったと思います。

この経験が無駄にせず、大学の授業でも自発的に英語を学習していきたいと思っています。



14 Weeks

カナダ留学を通して学んだこと



榎原 七海

Kashiwara Nanami

1 部英米文化学科 2 年



留学生仲間と

今回の留学での一番の目的は語学を向上させることだったが、それ以外にもたくさんの事を学ぶことができた。その中でも人との出会いを通じてたくさんの事を学ぶことができたと思う。留学に行く前からカナダの人は温かいと聞いていたが、その通りで、現地の人の優しさに何度も助けられたことがあった。ホームステイ先では、ホストファミリーが私の英語のレベルに合わせて会話をしてくれたり、私でもわかる簡単な海外の映画やドラマを一緒に見てくれたり、自然と私の英語の勉強と一緒にサポートしてくれていた。また、ホストマザーは毎日バランスのとれた食事をだしてくれたり、毎朝私のために早起きをしてお弁当を作ってくれて、常に私の体調を気にかけてくれて本当の家族の一員のように接してくれて、ホストファミリーのおかげでホームシックになることもなく何不自由なく生活ができたと思う。学校では、なるべく日本人とばかりではなく、様々な国の人と関わる事を意識していたが、そのおかげでいろいろな国の人と友達になれたことは自分の中でもこの留学にあたってすごく大きな出来事になったと思う。自分の英語に自信が無く、英語でコミュニケーションをとることにはじめは恥じらいもあったが、授業中やお昼の時間に毎日のように英語でコミュニケーションをとっていると、自分の伝えたいことが次第に英語でいえるようになり、よりいっそう英語でコミュニケーションをとることの楽しさを学ぶことができた。

この留学を通じて感じたことは、自分で思ったこと、感じたこと、言いたいことがあれば溜めずに口にだして言うなり、ノートに書き出すべきだ。そうすることで英語の上達にもなるし、自分を出すことで後悔せずにより留学生活を楽しめたからだ。



14 Weeks

カナダでの生活



花井 美空

HANAI Miku

1 部英米文化学科 2 年



ラウンジで楽しく

私は約四か月間の留学生活を通して、日本では経験できない様々なことを学びました。

最初のころは、英語が聞き取れず、聞き取れたとしてもなんて返していいのかもわからず、翻訳機能に頼ってばかりでした。さらに、家族にも友人にも会えず、ホームシックになり毎日がとても辛かったです。しかし、日本人の友達やカナダでできた友達、ホストファミリーのおかげで、徐々に寂しさを忘れて毎日を楽しむことができました。学校では毎日英語の授業を受け、新しい知識や今まで習ったことを改めて学ぶことができました。私のクラスはレベル3でした。レベル3の授業内容は私にとって難しく、クラスメートも流暢な英語をはじめから話せるような人たちばかりで、何回もくじけそうになりました。今になっては、周りに負けないように勉強を頑張ることができたので、レベルが自分に合っていないと感じたとしても、クラスを変えなくてよかったと思っています。私のクラスには、日本人のほかに、韓国人、中国人の留学生がおり、いろんな国の英語を聞くことができたのも私にとって貴重な経験でした。授業以外の時間は、仲良くなった韓国人とサウジアラビア人と毎日一緒にいました。新しいカードゲームを教えあったり、お互いの文化について話したり、ご飯を食べに行ったり、たくさんの思い出があります。カナダでの一番の思い出は、この友人たちと仲良くなれたことです。

カナダと日本は文化も違い、カルチャーショックを受けることがたくさんありました。

自国とは違う文化を学ぶことは私にとってはとても楽しく、毎日が発見の連続でした。人もとても優しくフレンドリーで、カナダに行くことができて、本当に良かったと思います。カナダは絶対にまた戻りたくなる、とても素敵な国でした。

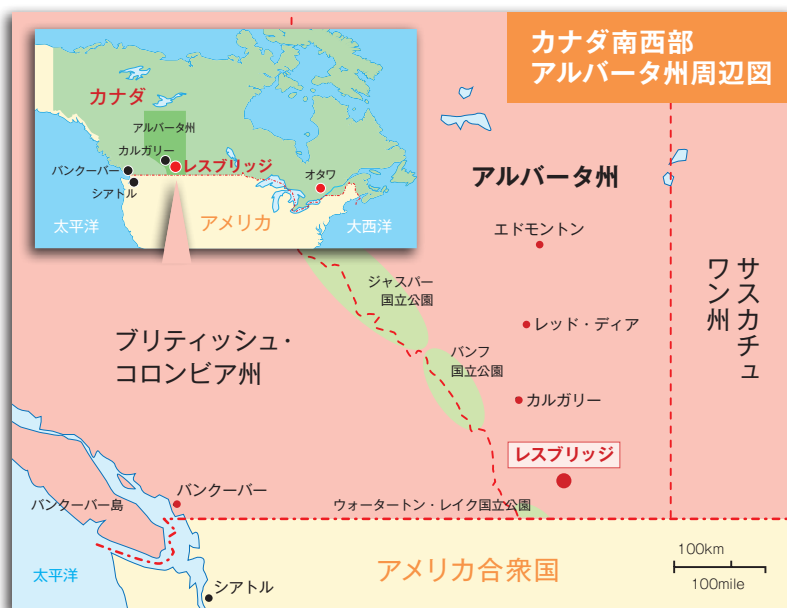


レスブリッジ大学及び Lethbridge 市の紹介

Lethbridge市

カナダの西部のアルバータ州に位置するレスブリッジ市 (City of Lethbridge) は、州内でカルガリー、エドモントン、レッド・ディアに次ぐ4番目の人口 (現在 93,004 人) を有する都市です。カナディアンロッキーの近くに位置するため、夏は涼しく (平均 26℃)、冬もさほど厳しくなく (平均 -2℃)、2時間南下すると、ロッキー山脈沿いのウォータートン・レイク国立公園に入り、1時間ほどでアメリカに行くことができます。

レスブリッジ市は南アルバータの商業、金融、交通、そして工業の中心で、19世紀後半からは炭鉱を中心に、20世紀初頭からは農業を中心に発展してきました。労働人口の半数は衛生、教育、小売、宿泊飲食産業などに携わっています。第二次世界大戦中、ブリティッシュ・コロンビア州から強制収容された日系人がレスブリッジ郊外の農村地帯に住んでいたという歴史を持ち、日系人の比率が比較的高いと言えます。2011年の国勢調査によれば日本人人口は1,575人 (そのうち日本語を母語として話す人口は320人)。現在、青森県十和田市と沖縄県南風原町と友好姉妹都市を結んでいます。また日加友好日本庭園 (Nikka Yuko Japanese Garden) が市の南部にあります。



レスブリッジ大学

レスブリッジ大学とは

レスブリッジ大学は、1967年州立大学として創立された南アルバータにおける唯一の総合大学です。南アルバータの3つのカレッジのうち2つが市内にキャンパスを構え、人文・社会学部、芸術学部、健康学部、理学部、経営学部、看護学部、演劇学部、音楽学部の八つの学部と大学院で学士・修士・博士課程の教育が行なわれ、150以上の学部課程のプログラムと大学院課程のプログラムを有します。在学生は8,400人 (500人は世界87カ国からの留学生) で、2014年『マククリーン』(カナダの時事雑誌)の大学の評価と、2013年 RESEARCH Infosource (研究大学を評価するサイト)において、いずれもカナダ国内の大学3位にランクされています。教育は少人数クラスと小コミュニティのなかで行なわれるのが特徴で、英語を母語としない学生のためのプログラムも毎年、春、夏、秋学期に提供しています。

レスブリッジ大学海外研修事業の概要とEAP授業

レスブリッジ大学と本学は1986年から提携を結んで学生交換事業を行ない、現在まで隔年ごとに多数の学生を相互に派遣してきました。グローバル化が進展するなか、この学生交換事業は「語学研修」と「交流体験」を通して英語の養成と国際性の涵養が目的とされ、多くの実績と豊かな経験を蓄積してきました。

2014年度から人文学部は、上記の事業にさらに「海外研修事業」を加え、学生が「英米文化特別演習」として、9月上旬から約3週間、また「国際文化特別演習」として約3ヶ月間、レスブリッジ大学が提供するEAP (English for Academic Purposes) のプログラムに参加できるように決定しました。EAPとは、英語を母語としない学生のためのプログラムで、大学で学ぶために必要な英語を習得する集中講座で、ライティング、リーディング、コミュニケーション、グラマーを専門講師から学び、初級から上級までのクラスレベルがあります。

研修期間中、学生たちは、南米諸国、中東、アジア各国からの留学生を中心とする多様な文化背景を持つ人々と授業を

受けることになります。また、ホームステイや世界各国からの留学との交流を通して、あるいは日加文化活動の参加と国立公園への探訪などの体験を通してカナダ文化に触れ、多文化主義をも体験することができます。

【授業内容例】

- 受講生はプレースメントテストにより初級から上級までの3つのレベルに分けられ、それぞれのレベルでライティング、リーディング、コミュニケーション、文法の4コースを受講します。
- 2014年度からレスブリッジ大学での研修を本学の「英米文化特別演習」（2単位）または「国際文化特別演習」（受講科目に応じる。過年度は12単位。）として履修可能となり、研修終了後にレスブリッジ大学から送られてくる成績評価に基づき、学部教授会で単位が認定されます。



様々な国からの留学生たちと



①②レスブリッジ大学の教室で ③学食で ④修了式で

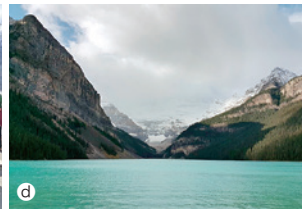
レスブリッジ大学のアクティビティ【日本庭園やウォータートン国立公園等】

生きた英語力を身につけ、より流暢に英語を話し、多様な価値観と国際性を涵養するためには、教室だけでは不十分です。さまざまなアクティビティを通して、豊富な体験をすることも必要です。

例えば、ある参加学生は、日本語を学ぶ同世代のパートナーと休日に日本庭園や英語環境のなかの日本文化イベントのお茶会に参加したり、和食レストランに行くなどのアクティビティを通して、とても感動したという体験談を報告しています。あるいは、金曜日は授業が早く終わるので、放課後にバーに行き、お酒を飲みながら話し、カナダ人のほぼ全員が踊れると言われているラインダンスを教えてもらったり、普段の授業の日もパートナーとお昼を一緒に食べたりすることで、よい友人関係を築き、帰国するときには離れたくなくてとても寂しかったという話もありました。戦前から日本と特別な関係があるレスブリッジ市ならではの体験ができるそうです。

また、Waterton National Park（ウォータートン国立公園）を散策した学生は、同じプログラムに参加した韓国からの留学生と一緒に行動し、英語を通してカナダでの異文化を体験しています。ハイキングで川の近くまで迫ったとき、壮大な湖と雄大な自然に感動して撮った風景は、どれもこれも絵になるような写真ばかりだったそうです。

参加者全員は、市民ホールで開かれたレスブリッジ市主催の国際留学生のための「グローバル・ナイト・パーティ」に参加しました。ゲーム、会話、ダンスなどで（食事込みで\$2のみ）、大いに楽しんだとのこと。



⑤日本庭園 ⑥日本文化イベントのお茶会 ⑦⑧ウォータートン旅行

3 Weeks

私がカナダで学んだこと



神田 舞雪

KANDA Mayuki

1 部英米文化学科 1 年



広大な自然の中でトレッキング

今回私は、異文化を実際に自分の肌で感じてみたいと思い、この研修への参加を決めました。カナダには日本とは異なる面がたくさんありましたが、大きく戸惑うことなく、楽しむことができました。

大学での授業は、生徒同士の交流がたくさんあり、生徒主体の授業であるという印象を受けました。様々な国や地域から来た学生との交流はとても新鮮で、楽しかったです。

また、私は授業以外にも様々なアクティビティに参加しました。それらのアクティビティでは、カナダの自然や伝統を味わうことができました。中でも Writing-on-Stone 州立公園でのトレッキングでは、カナダの壮大な自然を体感することができました。アクティビティを通して他の大学の学生とも交流することができ、友達の輪を広げることもできました。どのアクティビティも本当に楽しく、積極的に参加して本当に良かったと思いました。

また、私のホストファミリーはとても親切で、多くの部分で私のカナダでの生活を支えてくれました。彼らのおかげで、毎日安心して過ごすことが出来ました。さらに、家には私以外にも二人のルームメイトがいて、彼女たちとお互いの国や地域のことを語り合ったりすることができ、とても楽しかったです。二人とも歳が近く、とても心強い存在でした。

今回自分は英語の勉強不足で、相手の言っていることが中々聞き取れなかったり、自分の言いたいことを全くうまく伝えられなかったりしました。そのため会話もつながらず、悔しかったです。これからはもっと英語をたくさん勉強して、自分の言いたいことをしっかり伝えられるようになりたいです。また、今回の研修を通して、自分から積極的に行動することの大切さを学んだので、これからはもっと積極的に、自分から行動を起こしていきたいです。



3 Weeks

人生で最も特別だった 3 週間



今井 岳

IMAI Gaku

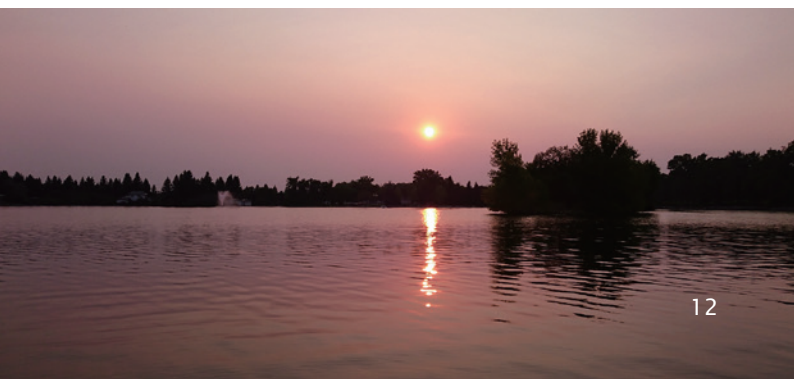
1 部英米文化学科 2 年



引率の先生、仲間と

私はこの 3 週間のプログラムに参加し多くのことを感じ、多くのものを得ることができました。まず一つは、カナダの人たちはとても親切でフレンドリーということを何度も感じました。学校初日に私たちはレスブリッジのダウンタウンに行きアクティビティを行いました。その際、目的の場所がわからず町の人に道を聞きました。すると、道を教えてくれるだけかと思っていたら、かなり距離があったのかかわらず、目的の場所まで案内してくれました。また、大学のジムでたった 4 人でバスケットボールをしていたら、二人のカナダ人が話しかけてきて、一緒にやらないかと誘われました。そのおかげで 3 対 3 のゲームができ、とても僕たちを楽しませてくれました。他にもたくさんの出来事がありましたがカナダではとにかくとても話しかけられました。こういうフレンドリーさは日本にはないなとしみじみ感じました。また、英語があまり話せなくても外国で生活できるということを学びました。私はたった 3 週間という短い期間でしたが、十分その自信は得ることができました。私は全然英語を流暢に話せませんが、ゆっくりしゃべったり、身振り手振りを使ったりすれば文法が間違っても自分の言いたいことは大体伝わりました。私はこの経験を経て、最も大事なものは言語ではなく、伝える気持ちの強さだと感じました。

このプログラムに参加しようと考えている人はおそらく言語面でとても心配を抱えていると思います。しかし、それは問題ありません。行ってみればわかります。もちろん多少英語はできなければなりませんがこの感覚をぜひ多くの人に味わってほしいので、是非、このプログラムに参加してください。この経験は一生の宝物になります。



14 Weeks

留学中の変化と発見



川村 凜臣

KAWAMURA Rion

1部日本文化学科2年



トレッキングの後、一休み

国際文化特別演習を通して最も変わったことは言語学習に対する姿勢と取り組み方です。このプログラムに参加する前は英語を話せると就活等で有利という理由で勉強しようと思っていました。しかし、カナダでの3カ月間で言語を勉強する利点を知ることができました。まず、言語習得の一番の利点はその言語が使われている文化の特徴を知ることができることだと思います。言語と文化は強く関係しているので、英語を勉強することで英語圏の人がどのような考え方を持っているか少しずつ理解できるようになりました。また、英語を話せるようになってくると言語の勉強の仕方がわかっていきました。この経験は英語以外の第二外国語を勉強するときに役に立つと思います。

授業で印象に残ったことは日本人と他の生徒の英語学習の仕方です。私のクラスは日本人が多かったのですが、授業中に発言するのは大抵日本人以外の生徒でした。文法がめちゃくちゃでも、先生が話しているときでも、わからないことなどがあるとすぐに発言していました。日本人は文法の知識はほかの生徒よりもあると感じました。しかし、完璧を求めすぎているせいなのか授業中の発言は少なく、話すときも文法を意識しすぎて会話が切れてしまうことがたびたびありました。言語を習得する一番の近道は他人の英語を真似することだと思います。ですから、最初は単語だけでもいいので文法を気にせずいろんな人と話すことが重要だと思いました。

カナダは多国籍社会で様々な人種の人が住んでいます。留学中は英語を学ぶだけでなく多文化からいろいろな影響を受け、様々な発見がありました。日本人といるとまだ慣れない英語から離れることができるので日本人のグループで行動している人もいますが、それに惑わされず、積極的にイベントなどに参加して英語を使いましょう。



14 Weeks

留学体験



松原 優人

MATSUBARA Yuto

1 部英米文化学科 2 年



自然の中でみんなと

今回の留学は私にとっては初めての海外生活であったため今まで経験したことがないことがたくさんあり、とても新鮮な経験をすることができました。実際にカナダで生活をして行くうちにカナダの良さだけでなく、日本の良さというものもあらためて感じました。また、中学生、高校生の時学んだ英語とは異なった生きた英語というものを実際に経験することによって英語学習に対するいい刺激となりました。しかし、私の4ヶ月間のカナダでの生活を振り返ると、最初の1ヶ月は自分の意思を伝えることが出来ず、次第に自分の英語能力に対して自信を持てず消極的になってしまっていた部分があり、もう少しうまく過ごすことができればよかったという後悔があります。英語を学ぶ上で人の真似をすること、間違いを恐れずとにかく真似をして発言することがいかに重要であるのか痛感しました。今回の留学を通して今後の英語学習に対する意欲がより高まり、これからの大学生活にカナダで得た経験を今後の大学生活に生かしていきたいと思います。

来年度、この留学プログラムに参加しようとしている学生へアドバイスしたいことは積極性です。私が参加したレスブリッジ大学の English Academic Program の多くの学生は日本人でした。そのため、私は英語を学ぶ環境としてはあまりよくないのではないかと感じました。しかし、レスブリッジ市内には多くのイベント、教会、ボランティア活動など自分が積極的にになれば英語を話す機会はたくさんありました。このようなイベントを通じて多くの人と知り合っていくことで新たなつながりが増えます。こういった小さな一歩一歩が英語を学ぶ上で重要だと思うので来年度この留学プログラムへ参加する学生は小さなイベント事であっても積極的に参加することをお勧めします。



研修までの流れ

※年度により、スケジュールが変更することもあります。



海外研修事業の歴史

■人文学部 英米文化特別演習／国際文化演習 実施一覧表

	研修大学	研修期間	引率教員	参加学生数	委員
第1回	ブロック大学	平成12(2000)年度 7月7日～8月13日	宝利 尚一 米坂 スザンヌ	18名 (男子7名、女子11名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ
第2回	ブロック大学	平成13(2001)年度 7月8日～8月12日	井上 真蔵 岩崎 まさみ	22名 (男子5名、女子17名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ
第3回	ブロック大学	平成14(2002)年度 7月7日～8月11日	桑原 俊一 上野 誠治	20名 (男子3名、女子17名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ
—	平成15(2003)年度 SARSの流行により中止				米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ 大石 和久
第4回	ブロック大学	平成16(2004)年度 9月4日～9月26日	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ	25名 (男子2名、女子23名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ
第5回	ブロック大学	平成17(2005)年度 9月4日～9月25日	栗原 豪彦 米坂 スザンヌ	24名 (男子4名、女子20名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ 中川 かず子
第6回	ブロック大学	平成18(2006)年度 9月3日～9月24日	中川 かず子 イアン・マンビ	20名 (男子6名、女子14名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ 中川 かず子
第7回	ブロック大学	平成19(2007)年度 9月2日～9月23日	上野 誠治 池内 静司	22名 (男子4名、女子18名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ 中川 かず子
第8回	ブロック大学	平成20(2008)年度 9月1日～9月21日	桑原 俊一 本城 誠二	23名 (男子0名、女子23名)	岩崎 まさみ 上野 誠治
—	平成21(2009)年度 世界流行のインフルエンザにより中止				岩崎 まさみ 上野 誠治
第9回	ブロック大学	平成22(2010)年度 9月5日～9月26日	岩崎 まさみ ウィリアム・ケイ	27名 (男子5名、女子22名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ 中川 かず子
第10回	ブロック大学	平成23(2011)年度 9月4日～9月25日	田中 洋也 ウィルマ・ルース	26名 (男子5名、女子21名)	米坂 スザンヌ 寺田 吉孝
第11回	ブロック大学	平成24(2012)年度 9月3日～9月23日	岩崎 まさみ ジェレミ・ブシャー	24名 (男子8名、女子16名)	米坂 スザンヌ 田中 綾
第12回	ブロック大学	平成25(2013)年度 9月1日～9月22日	上杉 忍 ブリックリン・ゼフ	13名 (男子3名、女子10名)	米坂 スザンヌ テレングト・アイトル
第13回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成26(2014)年度 8月31日～9月21日	柴田 崇 米坂 スザンヌ	14名(男子2名、女子12名) 12名(男子3名、女子9名)	米坂 スザンヌ 田中 洋也 テレングト・アイトル
第14回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成27(2015)年度 9月6日～9月27日	ジェレミ・ブシャー	14名(男子2名、女子12名)	米坂 スザンヌ 上野 誠治 ジェレミ・ブシャー
第15回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成28(2016)年度 9月6日～9月23日	米坂 スザンヌ	12名(男子2名、女子10名)	米坂 スザンヌ 本城 誠二 ジェレミ・ブシャー
第16回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成29(2017)年度 9月6日～9月22日	大森 一輝 テレングト・アイトル	13名(男子6名、女子7名) 12名(男子8名、女子4名)	米坂 スザンヌ 本城 誠二 ジェレミ・ブシャー

■人文学部 国際文化特別演習 実施一覧表

	研修大学	研修期間	参加学生数	委員
第1回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成27(2015)年度 9月8日～12月18日 平成27(2015)年度 9月9日～12月17日	3名(男子1名、女子2名) 3名(男子2名、女子1名)	米坂 スザンヌ 上野 誠治 ジェレミ・ブシャー
第2回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成28(2016)年度 9月6日～12月16日 平成28(2016)年度 9月7日～12月15日	3名(男子2名、女子1名) 3名(男子2名、女子1名)	米坂 スザンヌ 本城 誠二 ジェレミ・ブシャー
第3回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成29(2017)年度 9月6日～12月16日 平成29(2017)年度 9月7日～12月15日	3名(男子1名、女子2名) 3名(男子2名、女子1名)	米坂 スザンヌ 本城 誠二 ジェレミ・ブシャー

Photo Gallery

Brock & Lethbridge







平成30年3月発行

北海学園大学 人文学部

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号

TEL: 011-841-1161 (内線2132)

FAX: 011-824-7729

北海学園大学 URL: <http://hgu.jp/>

北海学園大学人文学部 URL: <http://human.hgu.jp/>

edit: Labbott